

# 生活の質の向上とは

- ・生活は、①命、②暮らし、③生き方 という3重構造になっている。
- ・支援者は利用者の生活水準を向上させるためにより質の高い生き方を考える姿勢が求められる。

## 【生活の質の向上】

- ・車いす生活の方がいつも好きな歌手のビデオを見ており、支援者がコンサートに同行することでとても喜んでいた。

## 【生活の質の低下】

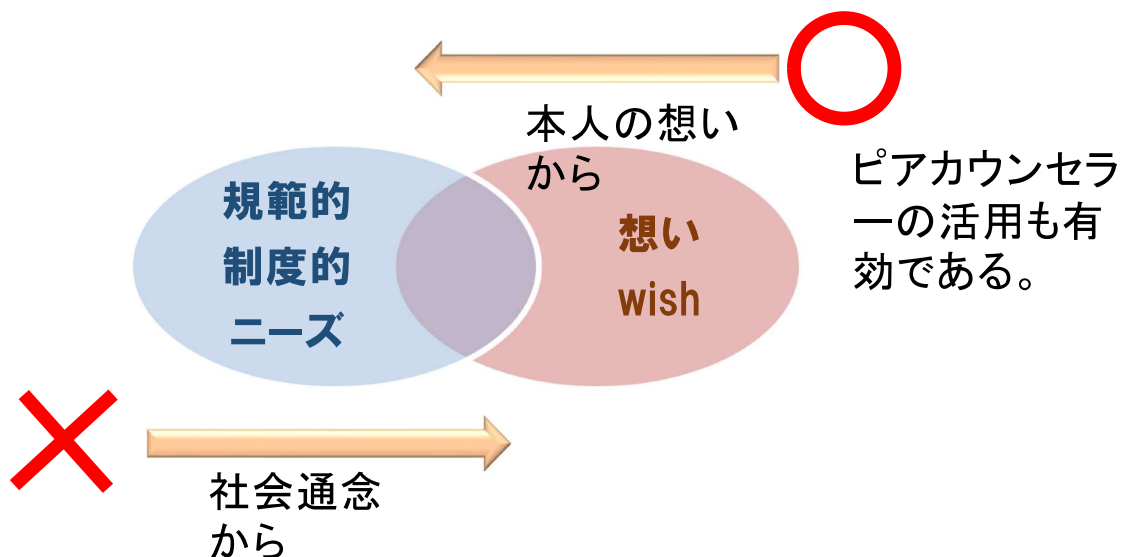
- ・生活介護事業所で遠出外出を予定していたが、雨のため中止となり、雨の日の楽しみ方が準備されていなかった。

5

## 基本的視点2

# 本人主体の視点(本人中心)

社会通念や既存の制度から障害を捉えるのではなく、常に本人に寄り添って「思い」を捉え、主体性を引き出す。



6

## なぜ本人主体なのか

- ・課題の解決からではなく、本人ができるかと、したいこと、好きなことに焦点を当てた支援を進めることでこそ、本人が主体的（我がごととして）に課題を克服することができる。
- ・重要なのは、本人の自己効力感の向上であり、したいことに近づくための小さな成功を積み重ねることや失敗を経験すること（プロセス・工夫重視）で学びを経て結果が形となって表れることを知ることで前進が始まる。

### 【就労継続支援B型】

月～金 まで同じ作業

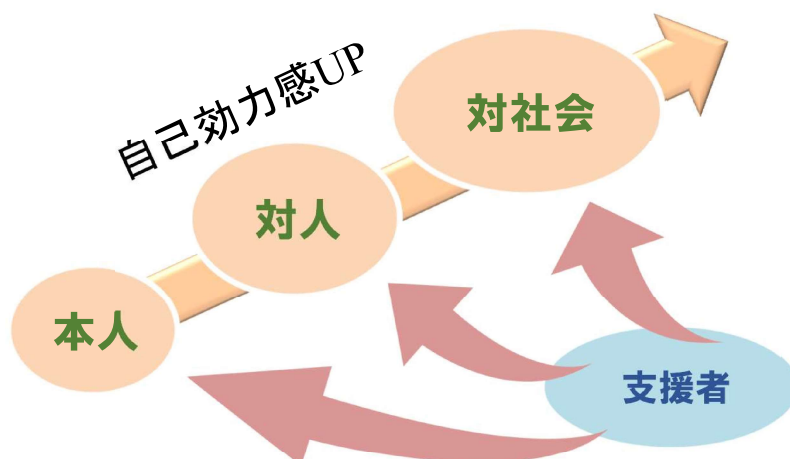
ただ単に作業を繰り返すか、毎日の目標を持って取り組むか

7

### 基本的視点3

## エンパワメントの視点（当事者による社会変革）

本人が周囲の人々や社会に働き掛け、社会を変えることで課題を解決していくために、環境に働き掛ける。



8

## エンパワメントとストレングス

- ・エンパワメントとストレングスは似たような概念である。
- ・ストレングスは人間の中にある逆境や苦難を乗り越えていく力や強さを表し、エンパワメントとは本人が周囲の人たちや社会に働きかけ、社会を変えることで課題を解決していくこと。
- ・エンパワメントをパワーが備わった状態とし、ストレングスをその状態になるための方法や視点とも考えられる。

### 【潜在能力の発揮】

- ・支援者は当事者の思いを組み入れ、当事者の支持や支援をしていく。

### 【例】

車いすで電車に乗りたい。

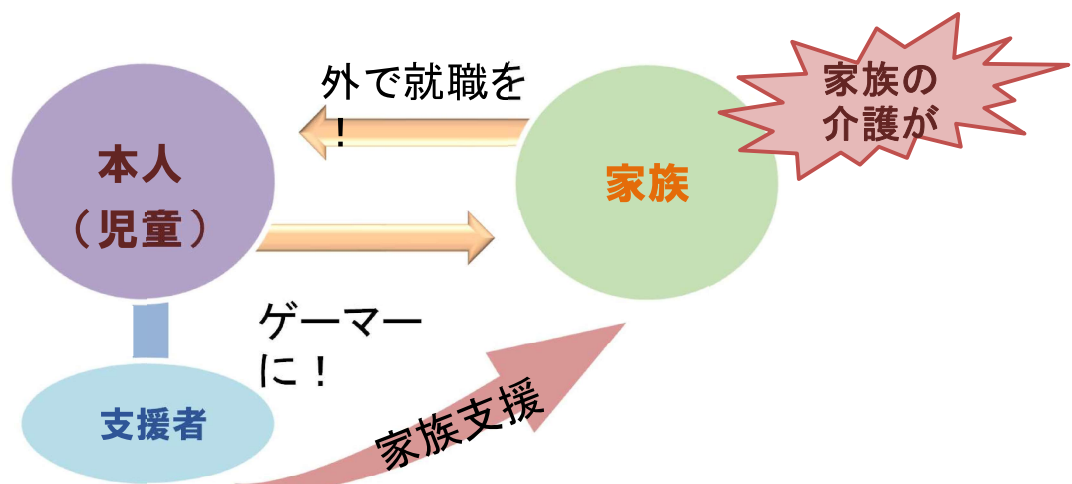
本人と市役所につけあう。⇒駅の整備をする。⇒乗車できる。

9

## 基本的視点4

### 個別化の視点（個性の重視）

画一的な価値観から本人を評価するのではなく、個性を活かした生き方を支援する。家族の人生も尊重する。



10

## 一般と個性とは

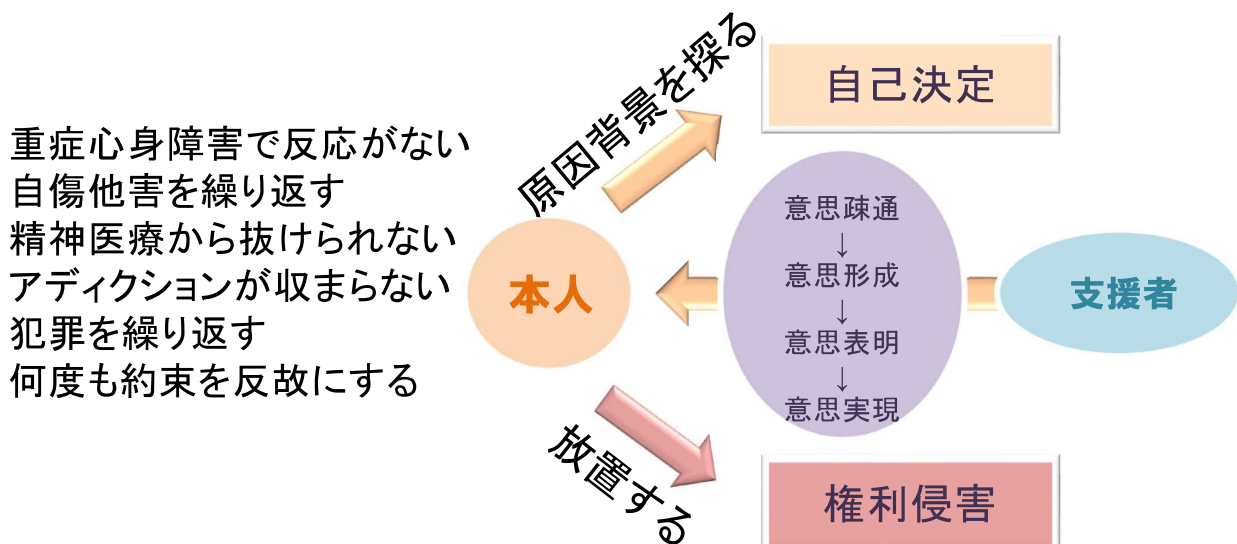
- 「脳性麻痺の方の一般的な特徴は、…。発達障害の方は○  
○が苦手です。」などと記載されている。画一的な価値観である。しかし、それはあくまで一般的であり、同じ脳性麻痺でもAさんとBさんは同じではない。
- その方のレベルや能力などとともに、おかれている環境などによっても特徴が出てくる。
- 本人や家族に聞き取りをすることにより、状況をよく理解し、Aさんの特徴として個性を大切にすべきである。
- 本人の意思と家族の思いが異なることもあり、家族の置かれている状況も理解していく。

11

### 基本的視点5

## 自立・自己決定の視点（意思決定支援）

どんなに重い障害や困難があっても、意思決定を行う能力があると捉え、環境を整え、自己決定に導く。



12

## 自立・自己決定の課題とは

- ・意思決定支援とは認知障害を持った人々が平等に社会参加できるように意思決定の手助けをすることとされている。
- ・最重度の方でも何らかの**意思決定ができる**という前提で進めていく。支援者側の工夫と寄り添いが重要である。

### 自己決定の課題

- ①生命・心身の安全と自由の尊重
- ②制度的な背景がもたらす影響
- ③支援者側の意識の問題
- ④家族に関する要因

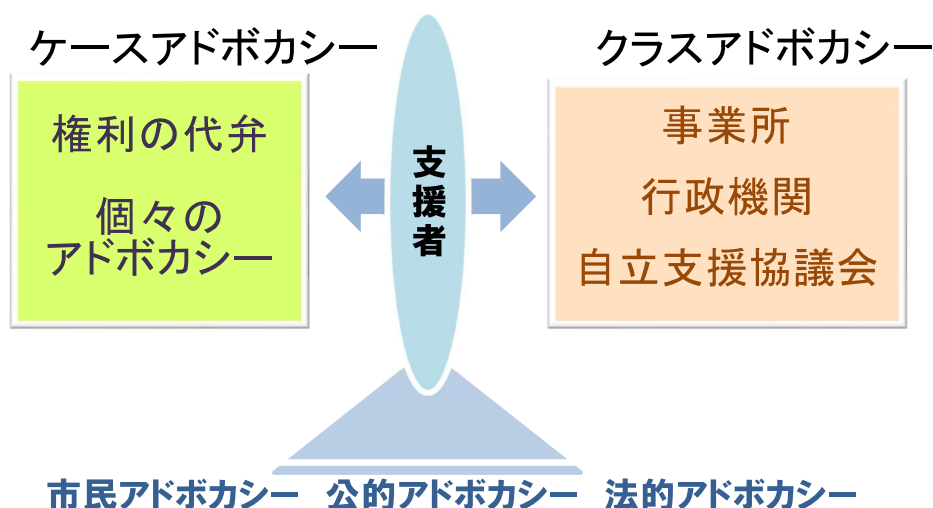


13

### 基本的視点6

## アドボカシーの視点（権利擁護活動）

ケースアドボカシーとクラスアドボカシー双方に通じて、高いレベルでその人らしい暮らしを実現する。



14

## アドボカシーの課題とは

- ・アドボカシーとは自分で判断する能力が難しい人のために権利の主張や自己決定をサポートする活動であり、権利擁護ともいわれる。
- ・事業所では権利侵害が起きていることがある。職員の要因として利用者との親密感やストレス、制度、知識の不足などが考えられる。
- ・当事者の権利を代弁すると所属事業所の批判になることがある。
- ・相談支援、法的支援、生活支援の3つの輪が重なり合うことが重要である。

# 相談支援（ケアマネジメント）の基本的視点 その2



社会福祉法人 薄光会 相談支援事業所 ほうきぼし  
富津市基幹相談支援センター えこ  
管理者/主任相談支援専門員 大森 匠

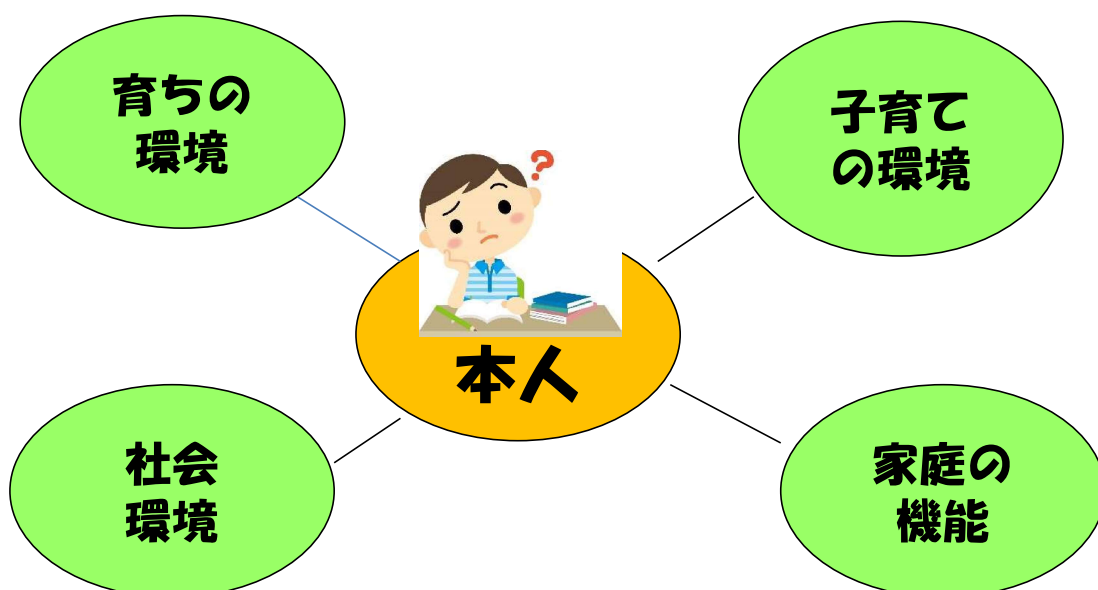
16

## この研修（講義）の獲得目標

- ・児童支援に対する基本的な視点を理解し、利用者および保護者の立場を確認する。
- ・ケアマネジメントの理念と技術、それぞれの場面でのポイントを体得し、障害者支援の現場で実践できるようになる。

17

# 子どもを取り巻く社会は今



18

## 児童支援の基本理念

1. 障害のある子ども本人の最善の利益を保障
2. 地域社会への参加・包容の推進と合理的配慮
3. 家族支援の重視
4. 障害のある児童の地域社会への参加・包容を子育て支援で

19



## 児童期の支援の基本的な支援

- 1, 手帳を持たない児童に対する支援
- 2, 乳幼児期の医療的な支援
- 3, 障害を持った家族への支援
- 4, 本人と児童の状態に合わせた子育て支援
- 5, 虐待の対象にならないための支援



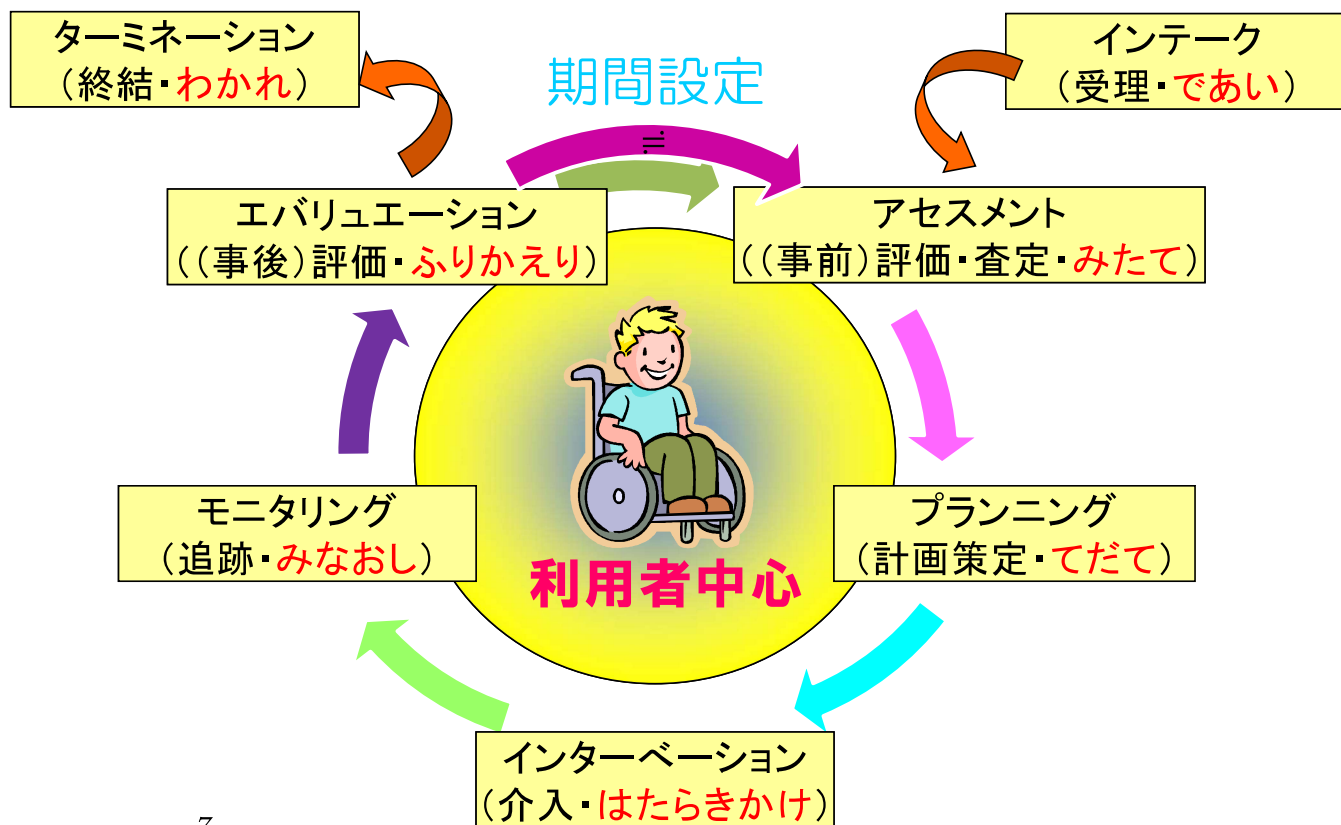
20

## 児童支援の方法・志向

- 1, 一人ひとりの児童の状況を把握
- 2, 児童の生活リズムを大切に
- 3, 発達の過程に応じた活動を支援
- 4, 児童の集団活動を支援
- 5, 児童が自発的、意図的に取り組める環境を
- 6, 児童の遊びを通じて力をつける
- 7, 親子関係を大切にする

21

# ケアマネジメントのサイクル(プロセス)



## ケアマネジメント過程 (1) インテーク

### ○インテーク

クライアントとケースワーカーが出会い、援助関係を構築していく最初の世界⇒**まず受け止める**

### ○インテークの基本的目的

- ・信頼関係の構築
- ・クライアントとその主訴の理解と把握
- ・サービス等の機能とケースワーカーの役割を説明
- ・援助を受ける意思の確認
- ・問題解決への動機付け